

JNNE 主催「途上国の教育の質についての学習会」報告

- 日時：2007年10月19日（金）15:30 - 17:00
- 場所：政策研究大学院大学（GRIPS）4階4B 研究会室
- 講師
 - ・ Ms. Rasheda K. Choudhury, Director of the Campaign for Popular Education (CAMPE), Board Member of the Global Campaign for Education (GCE), Bangladesh
 - ・ Dr. Eustella Bhalalusesa, Dean, Faculty of Education, University of Dar es Salaam, Tanzania
- 参加者 20名
- 内容
 1. 参加者自己紹介
 2. 教育の質に関する議論（Ms. Rasheda）
 - ・ GCE の紹介
 - ・ EFA の世界的潮流に対して、初等教育にフォーカスを絞りすぎであるとの指摘がある。
 - ・ 2015年までにEFAやMDGsの目標を達成したいのなら、2010年にはアクセス(量)の面ではすべての子どもが学校へ行っていないなければならない。そして、教育の質を達成するためには、市民社会、住民、政府は協力して取り組まなければならない。
 - ・ そこで、教育の質について、この場で皆さんと議論したい。

参加者から出た「教育の質」に関するキーワード

- ・ 生活、知識
- ・ 研修を受けた教員、十分な数の教員
- ・ 経営、スーパービジョン制度
- ・ 情報、データ
- ・ 教科書、教材、本
- ・ 地域住民のエンパワーメント
- ・ 効果的な地域参加
- ・ 十分な教室の数、設備、トイレ、水
- ・ 無償教育
- ・ 価値
- ・ 批判的思考を養う
- ・ 食事の提供
- ・ 適切なカリキュラム開発
- ・ 子どもに優しい教室
- ・ 教員の能力とやる気
- ・ 一人当たり教員の児童数

Ms. Rasheda からの補足

- ・ 児童中心主義、双方向にやり取りできる授業形式

3. タンザニアにおける教育の質の現状と課題（Dr. Eustella）

- ・ タンザニアの教育制度、教育状況、教育の歴史の紹介
- ・ 約80%の初等教育就学率の達成、それに伴って生じている課題に対応するため、2001

年教育改革 (PEDP : Primary Education Development Plan) が導入された。以下は主な特徴。

- 教員養成機関の短縮化、校舎の増築、
 - 途中退学等で学校外にいる子どもに初等教育を修了させるために、短期的かつ柔軟に準教員 (Para-professional teachers) を導入
 - 中等教育へのプレッシャー
- ・ PEDP の経過として、教育の設備は整ってきているが、教員のやる気が低い。
 - ・ 教授言語は、初等教育はスワヒリ語だが、中等教育からは突如英語に。国内でも議論が分かれている。

参加者からの質問

- ・ 質問者の出身国はベトナムであり、ベトナムは宗主国フランスの影響で初等教育が 5 年間である。タンザニアの場合は初等教育が 7 年間なのはなぜか？
→ タンザニアで教育制度を構築された時代においては、初等教育修了が大きな目標であり、卒業後はすぐに働くという状況があったために、初等教育が若干長く設定された。
- ・ 学校に通えない子どものための特別プログラムとは？ (Special programme for out-of-school children)
→ UNICEF が行っている。学齢を過ぎた子ども、教育制度が変更された時にめれた子ども、遠隔地の子どもは一人で通えるようになってから通学し始めるのでその穴埋め。状況に応じて、7 年から 10 年間。試験的に行われている。政府が UNICEF から引き継いだところ。
- ・ 資金管理
→ 地域の学校運営への参加状況は高く、例えば、父母からの集金は学校長が集め、地域がモニターし管理している。

4 . 自由討論

- ・ プライベートセクターの状況？

Dr. Eustella : 公的教育機関における教員の質の低さなどを原因とし、富裕層に属する生徒の私的教育機関への移動、高等教育レベルでは、職の不安定性による私的教育機関への教員の流出が起きていることから、公的教育機関にとって私的教育機関の存在は少なからぬ脅威となりつつある。

Ms.Rashida : バングラデシュでは、プライベートセクター、パブリックセクター、インフォーマルセクターのいずれにおいても、父母が授業料を払うことにより教育にかかるコストの一部を負担している。

・ Para-teachers

Dr. Eustella : 地域で養成することが多いため、教員の資質としての妥当性には課題があるが、地域および地域の子どもをよく知っているという点においてはよい。議論は分かれている。

・ 公立、私立の大学の割合

Dr. Eustella : 13 の公立大学, 16 の私立大学

・ モデルとなっている国は？

Dr. Eustella : イギリス

・ (ベトナムの場合) 中等教育が附属する私立大学は、大学の質もよいが学生の質がよいためにいい結果を出している。同じようなことが、講師の国でも起きているか？

Ms. Rashida : バングラデシュでも同じことが言える。小学校から英語教育を行っている一部の学校(インターナショナルスクール)は、優秀な学生を系列の私立大学に輩出している。しかし、まだ私立大学は歴史が浅い。

・ 妹や弟の面倒を見るために、学校に行かれない子どもが途上国にはたくさんいる。彼らのための保育園のようなものがあるのか？

Ms. Rashida : 教育を含む ECD は重要であるが、具体的な戦略はまだないと言える。80 の NGO と ECD フォーラムのドナーが活動しているが、まだ戦略自体策定中である。

Dr. Eustella : 学校に併設する施設は公的には存在していない。教員自身も子どもを職場に連れてきている。

・ 給食はあるのか？

Ms. Rashida : 栄養ビスケットだけ。

Dr. Eustella : 給食はない。小学校において、生徒が 6~7 時間食事なしで学習することは、学習効果の低下を招くとして、課題視されている。

・ 教育を通して児童労働に対するどんなプログラムが提供できると考えられるか？

Dr. Eustella : プログラムはないが、児童労働に関しては、家族の手伝いとしての労働と、法に触れるような児童労働が存在していることは事実だ。

以上